

# ICU 入室患者の推移に伴う看護の変化

救急部・集中治療部：小林 利江・下村 陽子・宮沢 育子

## 1. はじめに

当集中治療部は昭和48年に病床数2床でスタートした。昭和55年には救急部が設置され、昭和56年より現在の中央診療棟にて、集中治療部と救急部のドッキング方式として6床で、院内の重症患者と高次救急患者を対象として運用されている。

今回、当院の集中治療部（以下、ICU）の24年間の患者データベースを検討し、入室患者の推移に伴う看護の変化について考察したので報告する。

## 2. 方法

データベースは、入室患者の疾患を13項目に分類した。心血管には心臓外科と腹部血管外科が含まれる。昭和49年（1974年）から平成9年（1997年）までの全入室患者を対象にして、ICU疾患部位別利用患者数とICU疾患部位別利用延べ日数について検討した。

## 3. 結果

当ICUは、開設当時の需要が、開心術の術後患者を対象とした重症患者治療室であったため、当初は循環器外科患者が対象であった。しかし、昭和53年に脳神経外科が開設されてからは、中枢神経疾患患者数が疾患別利用患者数の第1位となりラポナール療法も行われるようになった。以後、中枢神経疾患患者と心血管外科系疾患患者が、疾患別利用患者数の第1位と2位を占めるようになった。

ドッキング方式として合同運営となった救急部が、昭和56年に開設されてからは、大学病院の特殊性を生かした3次救急とドクターカーの運用を行うこととなり、交通外傷による多発外傷症例や熱傷患者が搬入されるようになった。現在の、当ICUの動向に最も大きな影響を与えることとなった生体部分肝移植（以下肝移植）は、平成2年より開始され、現在では、ほぼ月2例の定期手術となっており、ICU疾患部位別利用患者数では、第5位となっている。表1・図1

ICU疾患部位別利用延べ日数では、疾患部位別患者数と同様中枢神経疾患患者と心血管外科系疾患患者が、第1位と2位を占めている。肝移植は開始後すぐに、かなりの日数をしめており疾患部位別利用患者数では第5位であるが、疾患部位別利用延べ日数では、第3位となっている。表2・図2

## 4. 考察

ICUにおける看護の需要は、対象となる疾患により経年的に変化してきた。

当ICUは長年、人口呼吸器が装着されている患者の呼吸・循環管理と脳神経外科患者の術後管理が中心となっていた。人工呼吸器装着患者は、人工呼吸器からウイニングできると、ICUを退出する患者がほとんどである。しかし、肝移植患者の場合は順調に経過すると、1病日目には気管内チューブは抜去され、その後7病日目までICUで集中治療を受けることになる。肝移植患者は、患者ひとりあたりのICU入室時間が長いと、疾患部位別利用患者数では第5位でも、疾患部位別利用延べ

日数では、第3位となる。肝移植患者はICUを生活の場とする時間が長いため、肝移植が開始されてからは、清潔度を維持し、快適に過ごすための環境の整備と精神面での援助が、以前にも増して重用となってきた。

また、当ICUは救急部とのドッキングによる高次救急患者の受け入れを行っているので、救急患者が搬入される際には、静かな環境が保たれず、療養している患者にたいしては、精神的にも悪い影響を与えていると思われる。

この救急患者のICUへの収容は、ICUの清潔度を維持する上でも制約となっている。近年では、年1～2回の閉鎖消毒を行っているが、免疫能が極めて低下した移植手術後の患者の集中治療に対しては不十分と考えられる。将来的には移植指向型集中治療ユニットと高次救急ユニットの分離の検討が必要であると思われる。

## 5. まとめ

- ・ICUにおける看護の需要は、対象となる疾患により経年的に変化する。
- ・生体部分肝移植患者の増加により、環境整備と精神面での援助が重要となってきた。
- ・高次救急患者の受け入れは、環境面・感染面で制約があり、移植指向型集中治療ユニットと高次救急ユニットの分離の検討が必要であると思われる。

## 参考・引用文献

奥寺 敬：信州大学付属病院におけるICU入室患者の推移，第13回甲信ICUセミナー雑誌，49-51，1997

(要旨は、第15回日本救急医学会東海地方会で発表した)

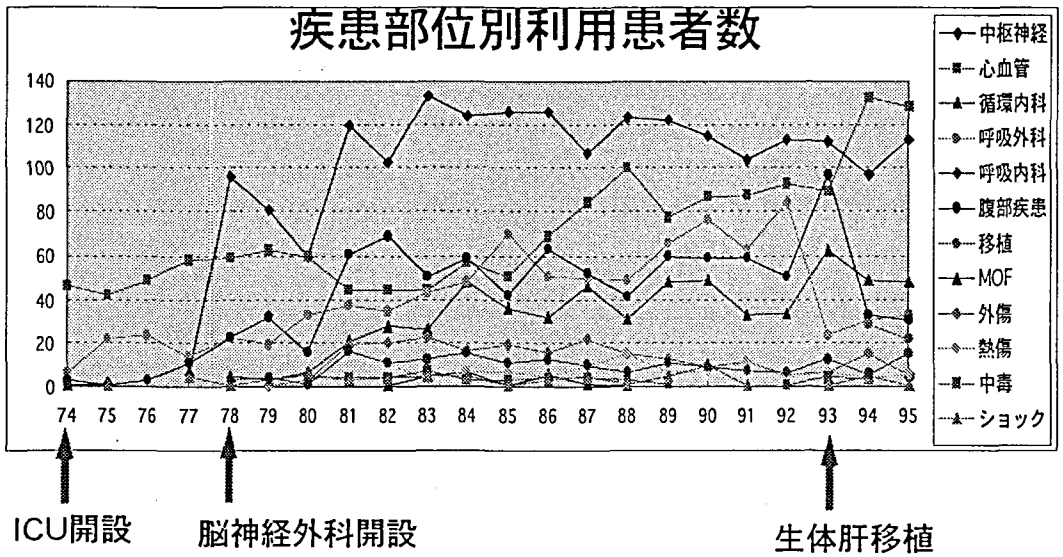
表一 1 疾患部位別利用患者数 (1997年)

1. 心血管外科系疾患	140人
2. 中枢神経疾患	133人
3. 腹部疾患	40人
4. 循環器内科系疾患	33人
5. 移植手術関連疾患	19人

表一 2 疾患部位別利用延べ日数 (1997年)

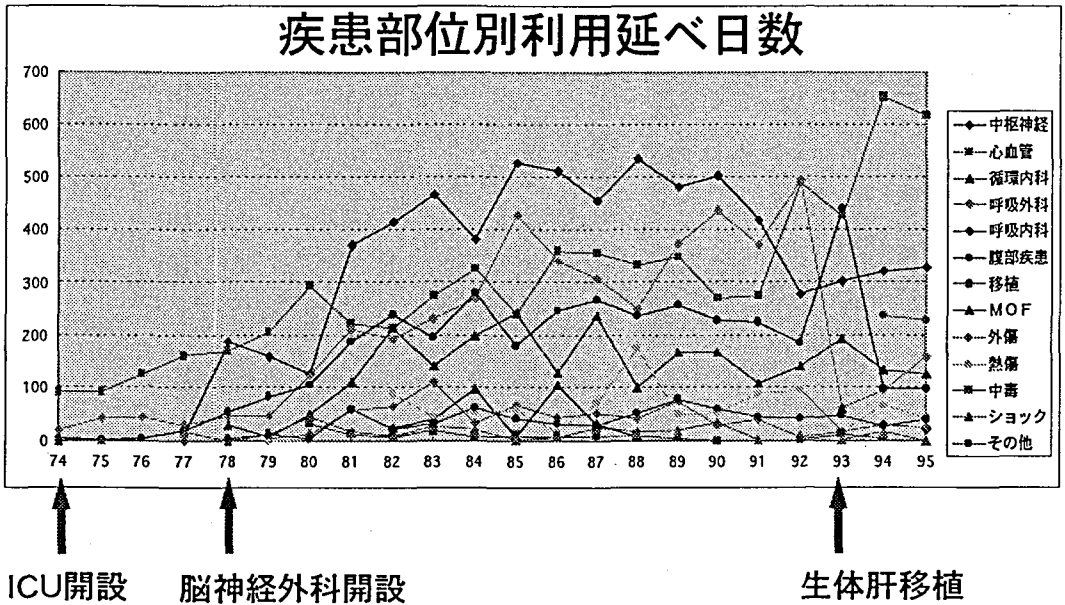
1. 心血管外科系疾患	740日
2. 中枢神経疾患	393日
3. 移植手術関連疾患	153日
4. 腹部疾患	135日
5. 循環器内科系疾患	100日

図1 信州大学医学部附属病院ICU統計1974-1995



信州大学医学部附属病院救急部統計1997より

図2 信州大学医学部附属病院ICU統計1974-1995



信州大学医学部附属病院救急部統計1997より